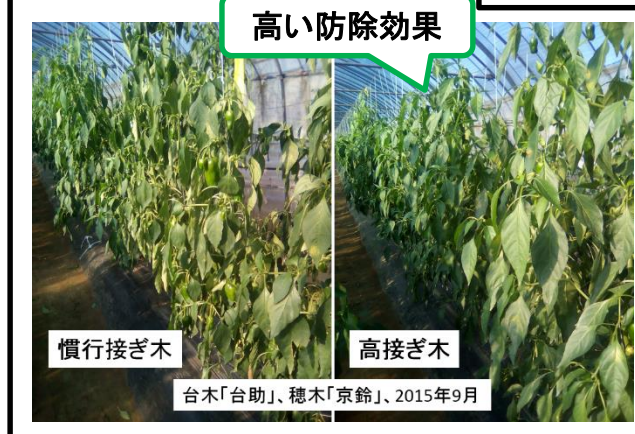
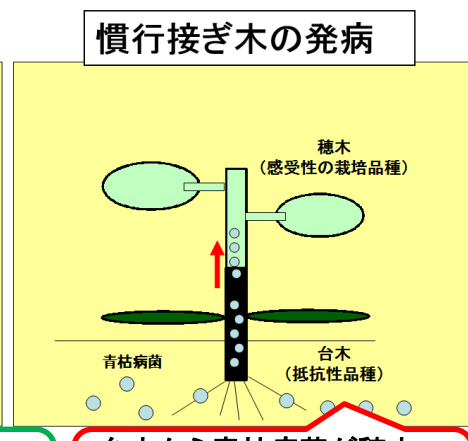
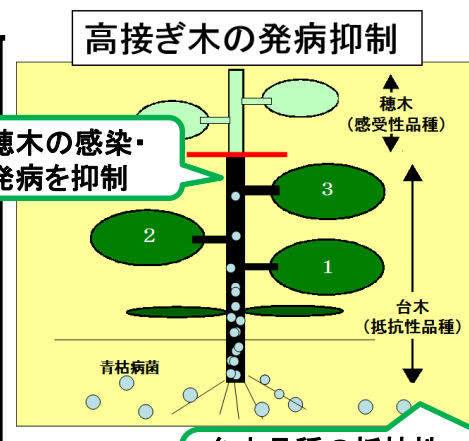
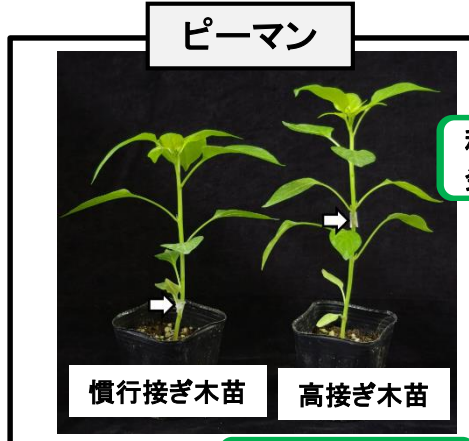
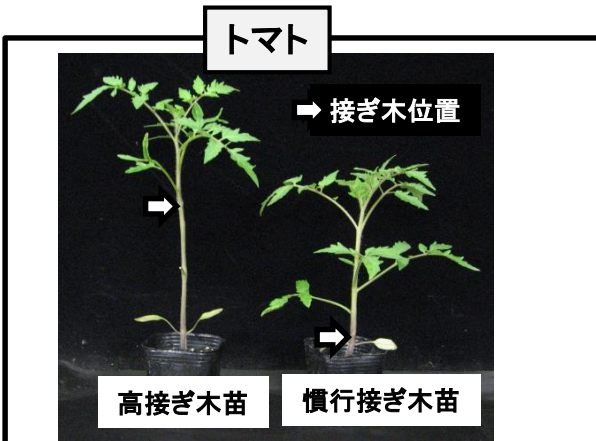


高接ぎ木法でナス科野菜の青枯病をしつかり防除！

- 高接ぎ木法は作物の抵抗性を最大限に活用した環境に優しい技術で、従来の慣行接ぎ木栽培よりも青枯病を防除できるようになりました。
- 高接ぎ木苗は民間企業より商品化されており、トマトでは42都道府県の生産者圃場に導入されました。
- 青枯病の発生を抑えることで、収穫量が増えて増益が可能になりました。

高接ぎ木法は、慣行より高い位置（地際から10cm以上）に接いだ苗を利用したナス科野菜の青枯病防除技術です。



台木品種の抵抗性：植物体内での青枯病菌の移行・増殖を抑制

台木から青枯病菌が穂木へ移行し、発病（高温条件、土壌の高度汚染等が助長）

生育、収量及び品質は慣行接ぎ木栽培と同等であり、栽培管理上の問題点はない。

試験区(穂木品種：麗夏)		株当たり収量		平均果重
台木品種	接ぎ木法	果数(個/株)	果重(g/株)	(g)
Bバリア	高接ぎ木	41.0	5,859	144
	慣行接ぎ木	37.0	5,310	140
レシーブ	高接ぎ木	35.9	5,166	142
	慣行接ぎ木	32.1	4,539	139

山口県現地ハウス圃場、夏秋作型(2009年7月-11月収穫物)、健全株調査

詳しい情報を知りたい、という方はお気軽にご連絡ください。

(国研)農研機構 中央農業研究センター 地域戦略部研究推進室広報チーム Email:koho-carc@ml.affrc.go.jp